

学校だより



令和2年 8月 21日
横浜市立二谷小学校
校長 石川 秀子

ゆっくり じっくり

学校長 石川 秀子

7月31日に梅雨が明けて以降、うだるような暑さが続いています。例年に比べて短い日数の夏休みでしたが、それぞれのご家庭で有意義に過ごされたことと思います。中止になったイベントや地域行事、お祭りなどが多かった夏でもあり、感染症対策や熱中症予防に気を配りながらの毎日だったと思います。自分で考えて判断することを求められる場面も多く、私は横浜を離れることはありませんでしたが、買い物に出るタイミングや時期を考えてしまう自分にハッとすることがありました。

毎年夏休みは、75年前の戦争を振り返り、平和について考える機会でもあります。今年は感染症対策のため、直接体験者から話を聞いたり、会場に足を運んだりする機会は少なくならざるを得ない年でした。それでも、伝えよう、知りたい、考えたいと思う多くの人の活動が75年前の出来事の風化を止めようとしています。

戦争のこともそうですが、現在の私たちから見れば「あの時が転換点だったのではないか」と考える機会があります。でも実際は、転換点という一点のみがあるのではなく、様々な逡巡や無意識の選択の蓄積が、現在と未来を繋いでいます。今のコロナウイルス感染症対策にしても、先の見えなさや治療への決定打がない中、模索している日常です。この情報化社会の中では、必要な情報は誰でも簡単に手に入りそうにも思えますが、実際は今何が起こっているのか、自分はどう判断して行動したらよいのか、それほどはっきりとは分かっていないもどかしさを感じます。手探りの状態の中ではありますが、学校では子どもたちの安心や安全、学びの機会を大切にしながら、教育活動に取り組んでまいります。地域・保護者の皆様、これからもよろしくお願い致します。

7月30日に、6年生に今年度の修学旅行は残念ながら中止とすることを伝えました。子どもたちを集団で、安心・安全に活動させ、なおかつ活動後も安全な学校生活が送れるようにすることを第一に考え、感染収束の見通しの持てない現状から中止と判断しました。今年度、本校では全ての宿泊体験学習の実施を見合わせることとなります。しかし、宿泊を伴わない遠足などについては、行先や活動内容、交通手段、実施時期を工夫すれば実施することも可能ではないかと考えています。公共の交通機関はなるべく使わず、徒歩または貸し切りバスを利用し、活動場所についても密を避けられる場所を各学年で検討しています。今後の感染状況によっては変更もありますが、できる活動を探り、よく考えて実施に向けて取り組んでいきたいと思っています。